

国連決議 世界自転車デー

World Bicycle Day

世界自転車デーとは、国連によって採択された国際デーのひとつである。英語での表記は「World Bicycle Day (ワールド・バイシクル・デー)」。毎年6月3日と決められており、世界各国でさまざまな取り組みが行われる。その目的は、“自転車のさらなる普及と活用”にある。

世界自転車デーが制定されたのは、2018年のこと。アメリカの社会学教授レシェク・シビルスキー氏の発案は、国際社会で多くの支持を獲得した。その後、国連加盟193カ国の賛成のもとで採択された。まだ世界自転車デーの歴史は浅く、認知度向上が今後の課題と言えるだろう。

世界自転車デー制定の由来と目的

では、そもそもなぜ世界自転車デーが制定されたのだろうか。その根底には、「自転車のさらなる普及や活用によって、人々の健康や運動能力を促進したい」という狙いがある。

自転車の歴史は非常に古く、その起源は1800年代までさかのぼると言われている。以降、私たちの移動手段として、またスポーツの道具として活躍してきた。さらに、子どもから大人まで扱いやすい乗りものでもある。自分の足でこげることから、健康維持にも役立つだろう。このような自

タンデム自転車にまつわるロマン

一台の自転車にサドルとペダルが二つずつ、2人が前後に並んで漕ぐタンデム自転車を発明したのは、デンマーク人のミカエル・ベデルセン。1893年に特許を取得したと記録されています。一台の自転車で友人と移動したり、恋人とペダルを踏んだり、身体的なハンディキャップを持っている人とサイクリングを楽しんだりという側面が評価され、19世紀末市民権を得たと書かれています。

そして、イギリスのハリー・ダグレが作曲したポピュラーソング「デージーベル」の中では「デージー、デージー答えておくれ、気が狂うほど君が好き。洒落た結婚式は望めないんだ、馬車はとても無理だから。でも君が二人乗り自転車に乗る姿は素敵に見えるだろうね」という求愛の歌詞があり、赤いお洒落な二人乗りの自転車で、息もぴったり自転車を漕いでいるモーションディスプレイ「BICYCLE FOR TWO」なども作られています。

究極あのアインシュタインが『人生とは自転車のようなものだ。倒れないようにするには、走らなければならない。』



▲北原照久コレクション
1950年代のモーションディスプレイ
「BICYCLE FOR TWO」

転車のメリットをより広げていくことが、世界自転車デーの目的である。

環境問題との関わり

自転車には、教育・健康・スポーツ面でのさまざまなメリットが期待できる。まず、車や公共交通機関の代わりに自転車を使えば、人々の運動不足は解消されるだろう。また世界に目を向けてみれば、日々の通学の負担によって学校に通えない子どもは多い。そこで自転車が普及すれば、質の高い教育をより多くの子どもたちに受けさせられるかもしれない。

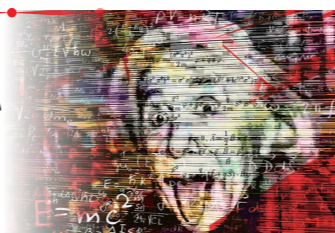
こうしたメリットのほか、忘れてはならないのが、環境面で生じるメリットである。自分の足でこいで進む自転車は、環境にやさしいエコな乗りものである。利用する際に二酸化炭素が発生しない自転車は、「環境負荷の少ない交通手段」として改めて注目されているのだ。

国連決議の文面です

という言葉を残しているというロマンも知ることができました。

NONちゃん倶楽部の誇り

日本では道路交通法の規制により、公道を走れないという状況がありました。1978年長野県が許可をおろしてから、2023年7月に最後となった東京都が許可を下すまでに45年の歳月がかかっているというのが日本の現状です。愛媛県は？という、全国で4県目に全面走行を許可されたのが2010年8月1日のことでした。この日から活動を始めたNONちゃん倶楽部では、婚活や地域防災・障害者施設での避難訓練なども含め、誰一人取り残さない自転車文化の普及を目指し、タンデム自転車の特性を活かした活動に取り組んでまいりました。これだけの活動ができているのは、誰かの役に立てるならと集まってくださるサイクリストやボランティア・胃袋つかみ隊の方々の、善意に支えていただけるからこそだと、深く感謝いたしております。



パッチ・アダムス・プロジェクト

心が震える先には 金色の道がある タンデム自転車が紡いだ 喜跡



「心のバリアフリー社会の実現」を目指して13年
～できるか できないか? ではなく、やるか やらないか!～
周りが 線を引かないこと

2023年が、私にとって忘れられない年になりました。72歳を迎えてなお燃え上がる情熱を抑えきれない自分で居させてくれる「タンデム自転車NONちゃん倶楽部」に感謝です!

人生、試練を乗り越えるには人との出逢いがいかに大切であるか!! 人は一人では生きていけない。助け助けられ、人と人が寄り添ってこそその人の世。そんな「人の底力」「人間力」を五感全てを使って体感できる現場に立ちあうことが

できる幸せは、何ものにも代え難い宝物。このプロジェクトを成功裡に導いてくださった皆様方に、心より感謝申し上げます。そして、喜びは分かち合うべきとの思いでこの冊子を作ることになりました。この試みを「心のバリアフリー社会実現に向けてのステップアップ事業」として、2023年度日本郵便年賀寄付金配分事業で、応援支援下さったことに心より感謝申し上げます。ありがとうございます!!

一人では何もできない しかし ひとりで始めないと 何もできない
やればできる!! I Love Me

タンデム自転車NONちゃん倶楽部の大切な理念

1. タンデム自転車NONちゃん倶楽部誕生秘話

夫 徳行(NONちゃん)が、46歳の時、持病の扁桃腺炎で7度2分の熱が出て治療に行った際に、五万分の一と言われた「スティーブンス・ジョンソン症候群」という薬害により視覚障がい者になるという試練を与えられました。何とか一命を取り留め20年近く生き抜く中で、タンデム自転車を使った日常生活を夢見たのですが、夢叶うことなく64歳脳幹梗塞で10時間ほどで天国へと旅立って行きました。生前「お前が俺の眼になり 俺がお前の脚になる」と、股関節が弱くて長距離歩行が難しい私との相互扶助の言葉を置き土産に遺っていた事がキッカケです。

2. 映画「パッチ・アダムス」との出会いが生き方まで変えた
「この指何本?」から始まる実在のドクターの物語。薬や注射に頼るのではなく、自分の中にある「治ろうとする力を引き出す」医療を目指して、夢や喜びを与える姿に感動して、主人や伯母をはじめとする6人の看護で真似てみたところ、数々の喜跡を体験。「**生命の奇跡に無感覚にならない! 死を遠ざけるのではなく生を高める**」と叫ぶパッチDr.の言葉を胸に刻みました。
3. 日本流奈さんのドキュメント番組を通して、ドーマン法を知って「親こそ最良の医師」という本に出会いました。脳障がい治療のバイオニアでもあるグレン・ドーマン博士は、重度の脳障がいの子供たちが、健常児と同じように生きられることを目指しています。「**貴方は障がいという線をどこで引きますか?**」という問いかけに納得!!

NONちゃん倶楽部の三本柱

- 1 「お前が俺の眼になり俺がお前の脚になる」夫(NONちゃん)が遺してくれた相互扶助の精神
- 2 生命の奇跡に無感覚にならないで!! 死を遠ざけるのではなく生を高める。映画「パッチアダムス」からの生命のメッセージ
- 3 貴方は障害という線をどこで引きますか? グレン・ドーマン博士の問いかけ

何かお手伝いできる事はありますか?

と気軽に声をかけましょう
タンデム自転車を架け橋に

六つの愛を育てたい。

- わ わかちあい(愛)
- た たすけあい(愛)
- し しんじあい(愛)
- は はげましあい(愛)
- な なぐさめあい(愛)
- い いたわりあい(愛)

龍源愛六カ条(柳原整体療術院)より